

民間塾①(1/2)

～農村に学問の種まきをした人 吉武法命～

江戸時代の唐津の村々には、庄屋達を中心に民間塾が開かれていました。そこには学問好きの村の子供達を通い熱心に勉強しました。

当時、町や村の子供達に、読み・書き・そろばんを教える寺子屋がありましたが、民間塾では、孔子に始まる中国の古い学問である儒学や、江戸時代の数学である和算、天文学など比較的程度の高い学問を身につけることができました。また、農村の子供や若者だけではなく、評判を聞きつけて武士達も通い熱心に勉強していました。農村に数多くの民間塾を開き、学問の種をまいた人が吉武法命です。

吉武法命(はじめ団四郎といい後に義質(よししかた))は、貞亨2年(1685)吉武九郎兵衛の次男として生まれました。吉武家は藩主土井氏の重臣で、兄の宗信は後に唐津藩の家老になっています。法命は小さいときから勉強が好きで、当時土井氏に仕えていた儒学者奥東江(とうこう)(清兵衛)の教えを受けて、本格的に学問の道をすすみました。

奥東江は近江(滋賀県)の生まれで、京都で医学と儒学を学びましたが、唐津藩4代目の藩主となった土井周防(すおうの)守(かみ)利益(とします)にしたがって唐津に来ました。彼は、身につけた学問は人々の生活に役立たせるべきだという考えでしたから、村を治める役人である郡(こおり)奉行(びぎょう)となって、村に出かけて農民の暮らしを自分の目で確かめ、飢饉で飢えに苦しむ人があれば藩の米蔵から数千俵の米を出して救ったり、生活の苦しさから生れたばかりの赤子を殺す間引きが行われていると、直ちにそれを禁じて人の命の大切さを説いたり、赤子を育てることが困難な人には、赤子養育米を与えたりしました。

彼のこのような、人の暮らしに役立たせようとする学問は「奥流の学」と呼ばれ、多くの人びとに受け入れられました。やがて、東江は若殿の教育係として江戸へ帰る事になります。

その後、奥東江の教えを受けた吉武法命が、唐津藩の代官(郡奉行の下で村を治める役人)となります。彼は村々をまわりながら、ひまを見つけては学問に志のある若者を集めて儒学を教えました。奥東江の教えを守り、謙虚な態度で学問の大切さを説く法命のまじめな人柄にひかれ、多くの若者が彼の教えに熱心に耳を傾けるようになりました。

～2/2へつづく～

分野 歴史

地域 唐津

◎地図・写真・統計資料など



吉武法命の墓(唐津市神田)
弟子たちによって建てられた



無量軒学校跡(唐津市海士町)

(『郷土につくした人々』より)

◎引用・参考文献(出典)

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html

民間塾①(2/2)

～農村に学問の種まきをした人 吉武法命～

～1/2からつづく～

享保17年(1732)、法命は47歳で代官をやめて母の住む山田村(唐津市山田)で暮らすようになります。法命宅には、向学心に燃える若者達が法命の教えを受けに集まりました。後に虹の松原一揆のリーダーとなる富田才治は、10キロも離れた平原村から通って来て夜のふけるまで熱心に勉強し、時には泊まっていくこともありました。やがて、法命は城下の船宮に移り、近くの海士町にある古い寺跡を借りて無量軒学校と名づけ、若者達の教育にあたりました。法命の教育は、儒学の教科書を読むだけでなく、学んだことをもとに自分で考え、互いに意見を出し合い、正しいと思ったことは実行しなさいとというものでした。法命の生徒の中には向平蔵(相知村(馬場村)庄屋)、富田才治(平原村庄屋)、大谷治吉(双水村庄屋)、前田庄吉(徳須恵村庄屋)などのように、法命に代わり授業をする者もあらわれました。

法命は儒学ばかりでなく、ヨーロッパの地理学や天文学の知識も身につけており、地球儀を作って塾生を驚かせたこともありました。

やがて、教えを受けた庄屋達は、自宅に私塾をつくり法命を迎えて村の若者ととともに学問を学ぶようになりました。私塾は七つもありましたが、法命は宝暦9年(1759)、76歳でなくなるまで、この七塾をまわって授業を続けました。

吉武法命が巡回して授業をした七塾

	塾名	村名	庄屋
1.	信齋塾	相知村	向平蔵(復齋)
2.	彊亭塾	平原村	富田理太夫(富田才治の父)
3.	習化堂	玉島村	榑崎克齋(九兵衛)
4.	買珠亭	徳須恵村	前田庄吉
5.	思順亭	筑前吉井村	榑崎克齋(九兵衛)
6.	新々齋	双水村	大谷治吉
7.	時習亭	佐志村	大谷治吉

(注5)
明和八年(一七七一年)唐津藩で起こった減税を求める農民や漁民の武力蜂起

この「法命の七塾」で学んだ若者の中から、やがて村の庄屋になる者があられ、彼らもまた法命の教えを受け継ぎ、私塾を開いて村の若者の教育にあたりました。

こうして幕末に至るまでのおよそ120年の間に、草が根を張るように広がっていった村の私塾は30あまりにもなりました。

◎引用・参考文献(出典)

◆『郷土につくした人々』
～ふるさと唐津の偉人たち～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html